

第 73 期 日本語研修コース

研修成果発表会 資料集

2022 年 9 月 16 日

広島大学森戸国際高等教育学院

目次

LOMUDE LUGA SANTO ISAAC (ルガ)	・ ・ ・ ・ ・	1
南スーダン		
EMMANUEL PORI GEORGE (ポリ)	・ ・ ・ ・ ・	6
パプアニューギニア		
AMLY RAGHAD M. F. (ラガド)	・ ・ ・ ・ ・	11
パレスチナ		
MWAKAWANGA DORKASI LUSHINDIHO (ドルカシ)	・ ・ ・ ・ ・	17
タンザニア		
FONSECA DARA LOPES DIAS (ダラ)	・ ・ ・ ・ ・	24
カーボベルデ		
ASHSHOLIH KHOIRUR RIJAL (リジャル)	・ ・ ・ ・ ・	31
インドネシア		

LOMUDE LUGA SANTO ISAAC (ルガ)

みなさん、こんにちは。

わたしは日本語コースのルガと申します。南スーダンから参りました。今日は、わたしの研究についてお話しします。

私は耳鼻科を専攻した医者です。耳鼻科は耳と鼻と喉の病気を診断し治療します。これから広島大学の博士過程に入り、好酸球性慢性副鼻腔炎という病気に関して、研究する予定です。この病気の名前は複雑ですが、症状として血管炎や神経炎、脳梗塞、心筋梗塞などが見られます。これからこの研究を始めた理由を説明します。

私の国の首都ジュバという町の大学病院での研修が終わった時に、進学したいと思って、大学院に入る方法を探し始めました。アフリカに残るか、海外に出かけるか、ふたつの選択肢がありました。様々な奨学金を応募しましたが、エチオピアのワチェモ病院と日本の広島大学が同時に決定されました。ひとつしか選べませんでしたので、広島大学の奨学金にしました。その理由は以下の通りです。

まず、広島大学の教育水準が高いです。

それから、日本で留学することによって、将来の就職活動が有利になると思います。

さらに、日本は安全な国で、医療制度が優れていますので、安心できます。

最後に、歴史が長く、自然が豊かなので、どこに行っても、きれいな観光スポットがたくさんあります。

日本でたくさんの人と交流し、いろいろな友達を作りたいです。

わたし
私のテーマは好酸球性慢性副鼻腔炎です。この病気は、アレルギー性鼻炎がある
人において、全身の細い血管に炎症が生じて、さまざまな臓器に障害がおりま
す。

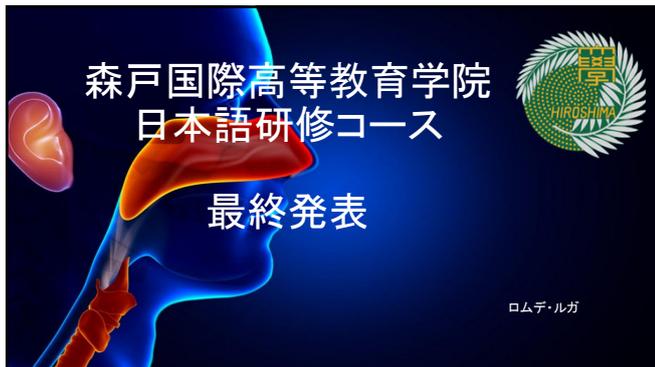
ぜんしん けっかんしょうがい
全身の血管障害のために、肺炎、神経や胃腸の障害、脳卒中などの病態がお
こることがあります。そのため、血管の炎症を抑えるために治療では主にステロイ
ドが用いられます。この病気に関して研究をすることによって、原因が明らかにな
るだけではなく、再発を予防したり、治療の質を改善したりすることができると思
います。

さいご わたし しょうらい
最後に、私の将来についてお話します。

ねん ひろしまだいがく べんきょう お じぶん くに かえ よてい
2026年までに広島大学での勉強を終え、自分の国に帰る予定です。自分の国にも
好酸球性慢性副鼻腔炎の患者が多いので、彼らの治療をしながら、出身大学で新
しい医者世代を育て、共同研究もしたいと考えています。

なが
長くなりましたが、私からは以上となります。

ありがとうございました。



1



2



3



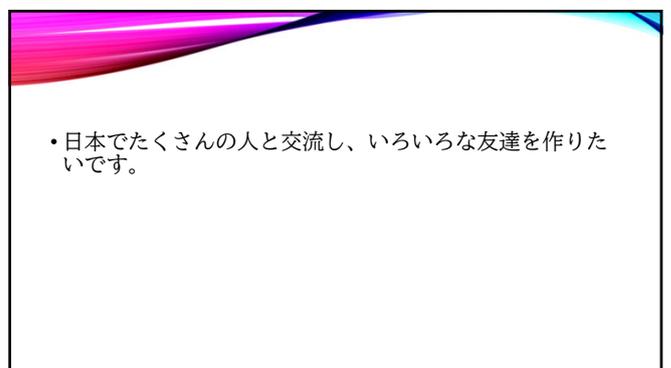
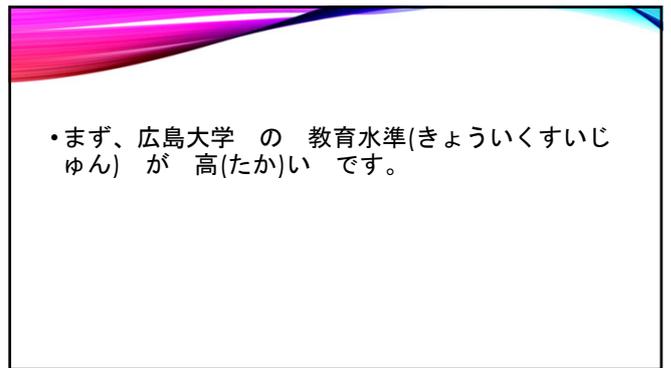
4



5

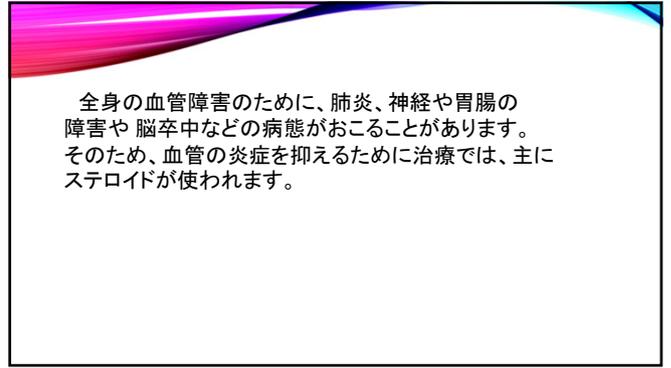


6

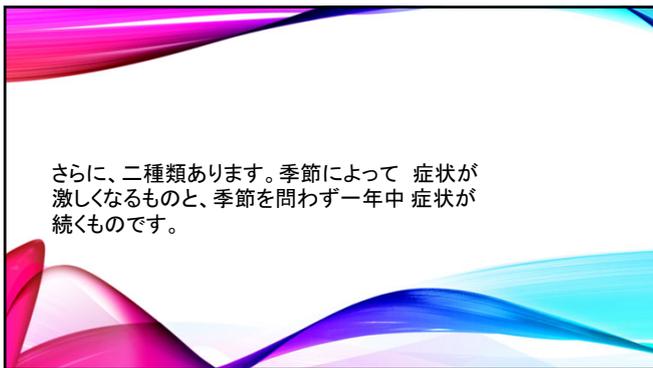




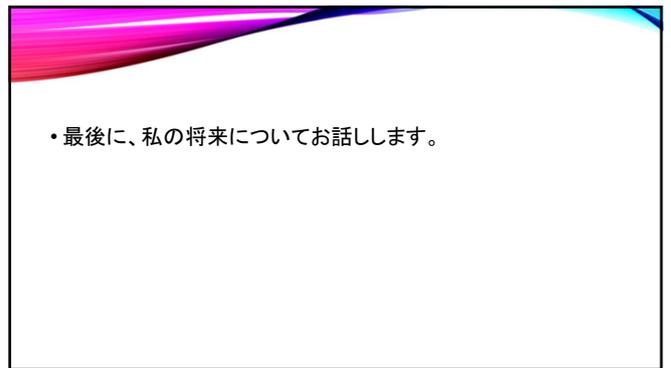
13



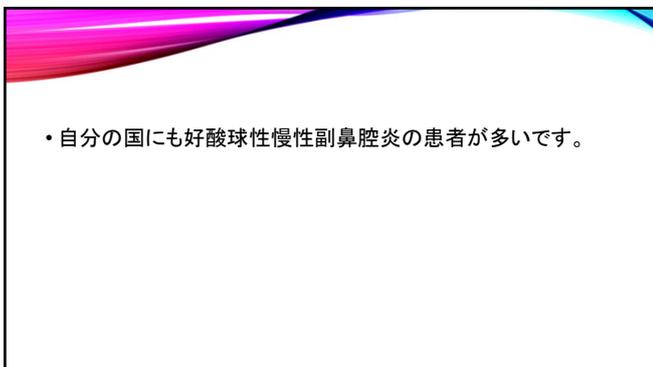
14



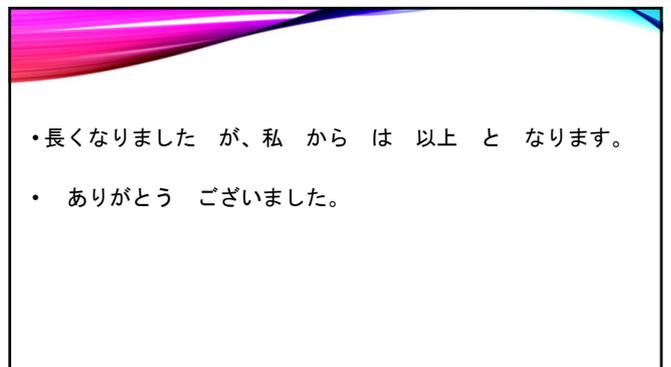
15



16



17



18

みなさんこんにちは、私は日本語^{けんしゅう}研修コースのポリです。私は、今、広島大学の^{だいがくいんにんげんしゃかい}がくけんきゅうか^{けんきゅうせい}大学院人間社会科学研究科の研究生です。

これから、私の研究 — パプアニューギニアの^{ほごちいき}保護地域への^{こくさいえんじょ}国際援助の^{かだい}課題と^{してん}視点について話したいと思います。パプアニューギニアには^{ほごちいき}保護地域があります。いろいろな国が、その^{ちいき}地域の^{ほご}保護のために^{こくさいえんじょ}国際援助をしています。私は、^{うんえい}運営における日本の^{きょうりょく}協力とその^{かだい}メリットと^{かだい}課題について研究したいと思っています。

パプアニューギニアでは、さまざまな^{せいさくぶんしよ}政策文書を^{つぎつぎ}次々と^{さくせい}作成する^{しゅうかん}習慣があります。しかし、これらの政策を^{ぐたいてき}具体的な^{てんかい}政策展開として^{じつこう}実行することになると、^{じつさい}実際に^{じつこう}実行されるのは、40%以下です。そして、^{ほごちいき}保護地域と^{かんきょうほぜん}環境保全に関する^{かん}政策は、^{せいさくぶんしよ}政策文書はあるが^{じつこう}実行されない^{せいさく}政策の1つです。

まだ子どもで、^{べんきょう}勉強している^{じだい}学生時代、日本は^{ほってん}発展した^{せんしんこく}先進国だとわたしは^き聞きました。そして、いつの^ひ日か、日本で^{べんきょう}勉強して、^{しごと}仕事をするのがわたしの^{もくひょう}目標になりました。

日本政府^{せいふしやうがくきん}奨学金の^{ぼしゅう}募集が出たとき、わたしはほかの^{せいふ}奨学金がありました、すぐ^{おうぼ}応募しました。

では、私の研究です。私の研究は、^{ほごちいき}保護地域の^{じつこう}政策実行に関する^{ぶんせき}政策分析と、^{しゅう}州および^{ちほうせいふ}地方政府の^{かん}保護地域に関する^{ひかくぶんせき}比較分析です。それは、^{ほごちいき}保護地域の^{せいさく}政策実施と^{ちいき}地域政府と^{ちほう}地方政府における^{にこくかん}二国間の^{ひかくせいじぶんせき}関係の^{ひかくせいじぶんせき}比較政治分析です。つまり、^{ほごちいき}保護地域での^{せいさく}政策の^{じつこうじょうきょう}実行状況と、^{せいさく}政策実行における^{がわ}日本側と^{がわ}パプアニューギニア側の^{かんけい}関係を分析するという事です。わたしは、そのような研究を、^{おも}主に^{ちやうさ}調査と^{しつてき}質的な^{けい}ケーススタディメソッドとする^{よてい}予定です。それには、^{いんたびゆう}インタビューや^{あんけーと}アンケートもあります。

パプアニューギニアの、^{りく うみりょうほう}陸と海両方の、^{せいぶつたようせい せいいたいけい}生物多様性や生態系に関する課題や問題^{かだい もんだい}についてもみます。さらに、私の研究では、二国での政策実行の成果と、その政策実行プロセスに^{えいきょう}影響する^{よういん}要因を分析します。また、^{しぜんかんきょう}自然環境や人々の^{ひとびと}生活条件の^{せいかつじょうけん}保護施策や、政策が^{さくてい}策定されてから、^{ちほうじちたい}地方自治体や^{さまざま}様々な^{ほごちいき}保護地域のホットスポットに住む人々が^すどれだけメリットがあたかを分析します。

私の研究は、政府とその関係者の政策がうまく^{じっこう}実行されるようにすることによって社会に^{こうけん}貢献します。つまり、^{かんきょうぶもん}環境部門や^{しやうちやう}省庁だけでなく、すべての政府機関で、政策が^{ぐたい}具体的に^{すす}進むようにします。私の研究活動は、パプアニューギニアの^{せいいたいけい}生態系と^{かんきょう}環境を^{ほぞん}保存することや、^{やせいせいぶつ}野生生物の^{せいいたいけい}生態系を^{しやうらい}将来の世代のために^{ほご}保護することを^{かくじつ}確実にします。私の研究は、日本でもパプアニューギニアでも、このパートナーシップと^{がいこう}外交関係のさらなる^{はってん}発展に大きく貢献します。さらに、この研究をすることで、わたしは、政策の策定と実行、そして日本の^{せいじせいど}政治制度の^{きのう}機能という点で日本の政治制度から^{まな}学ぶことができます。そして、そのスキルや知識を^{つか}使えるようになります。

以上でプレゼンテーションを^お終わります。

ありがとうございました。



1



2



3



4



5



6

保護地域の政策実施と地域政府と地方政府における二国間の関係の比較政治分析です



7

政府とその関係者によって実施される政策がうまく実行されるようにすることによって、社会に貢献します



8

パプアニューギニアの生態系と環境を保存することや、野生生物の生態系を将来の世代のために保護することを確実にするために貢献します



9



10



11

政府とその関係者の政策がうまく実行されるようにすることによって社会に貢献します



12

以上でプレゼンテーションを終わります。
ありがとうございました。





日本語研修コースの最終発表です。

私が日本に留学した理由をお話しします。

1. Introduction:

みなさん、こんにちは。私は、日本語けんしゅうコースのラガドです。パレスチナから来ました。

私は、今、^{だいがく} 広島大学の^{けんきゅうせい} 研究生です。これから、私の^{けんきゅう} 研究について^{はっぴょう} 発表します。

2. Presentation outline:

はじめに、日本にくるまえのことについて、^{はな} 話します。^{つぎ} 次に、これから^{けんきゅう} 研究したいことについて、^{せつめい} 説明します。さいごに、^{けんきゅうしゅうりょうご} 研究 終了 後の^{しょうらい} しょうらいを^{てんぼう} 展望します。

3.1 Background:

私は^{こうこう} 高校を^{そつぎょう} 卒業して、エルサレムの大学に行きました。そこで ^{こうしゅうえいよう} 公衆 栄養を^{ねんかん} 4年間、勉強しました。さらに、^{しょうがくきん} HESPAL 奨学金をもらってイギリスに行つて、ウィンチェスター大学の^{いん} 大学院の^{おうえん} マスターコースに入りました。そこで、「^{おうよう} 応用グローバルプラクティス」を勉強しました。さまざまな^{ちきゅうきぼ} 地球規模の問題に取り組むための^{じっさい} 実際の^{ほうほう} マネージメントの方法です。私の^{けんきゅう} 研究の^{しょうてん} 焦点は、世界の^{せかい} 食糧 ^{しよくりょうあんぜんほしょう} 安全保障と世界の^{せかい} 飢餓 ^{きが} でした。マスターは^{ゆうとう} 優等で^{そつぎょう} 卒業しました。そして、パレスチナに^{かえ} 帰つて、^{しごと} 仕事を^{はじ} 始めました。ITの会社です。私は今もその会社で、^{かいほつ} メディカルロボットの^{かいほつ} 開発をしています。

それから、^{しょうがくきん} MEXTの奨学金をもらいました。今私は日本で^{はかせかてい} 博士課程の勉強をしようとしています。私は、これまでの私の^{けんきゅう} 研究を広島大学で1つにまとめようと思っています。



3.2 Research:

私の研究テーマは、「抗^{けん}癌^{きゆう}成分としてのレクチンの栄^{えい}養^{よう}特^{とく}性^{せい}」です。がんの早^{そう}期^き診^{しん}断^{だん}と治療^{ちりょう}の新^{あたら}しい方^{ほう}法^{ほう}の可^{かの}能^{のう}性^{せい}を研^{けん}究^{きゆう}しようとしています。具^ぐ体^{たい}的^{てき}には、レクチンの性^{せい}質^{しつ}を研^{けん}究^{きゆう}します。糖^{とう}結^{けつ}合^{ごう}タン^{たん}パ^ぱク^く質^{しつ}のレクチンは、がんの診^{しん}断^{だん}と治療^{ちりょう}に多^{おほ}くの用^{よう}途^とがある可^{かの}能^{のう}性^{せい}があります。

3.3 Future plan:

今^{いま}まで、私^{おこな}が行^けつて^いきたすべ^{すべ}ての決^け定^{てい}は、将^{しょう}来^{らい}のキ^きャ^りア^あのた^ため^めです。私^{わたし}の夢^{ゆめ}は、学^{がく}術^{じゆつ}コ^こミュ^{ミュ}ニ^ニティ^{ティ}に貢^{こう}献^{けん}し、み^{みな}んなの生^{せい}活^{かつ}の向^{こう}上^{じやう}に貢^{こう}献^{けん}するこ^こと^とです。も^もう一^{ひと}つ^つの夢^{ゆめ}は、大^{だい}学^{がく}の先^{せん}生^{せい}に^にな^なるこ^こと^とです。

パレ^{かえ}スチ^きナに帰^{かえ}るか、日^に本^{ぽん}でし^しゅ^{しゅ}う^うし^しょ^ょく^くす^するか、ま^まだ決^きめ^めてい^いま^ませ^せん。今^{いま}の^のと^ところは、日^に本^{ぽん}に^にい^いる時^じ間^{かん}を^を楽^{おほ}しみ、多^{おほ}くのこ^こと^とを^を学^{まな}び^びたい^{たい}と思^{おも}っ^つて^てい^いま^ます。

4. Closure:

最^{さい}後^ごに、先^{せん}生^{せい}方^{がた}にはと^とて^とも親^{しん}切^{せつ}に^にし^して^てい^いた^ただ^だき、た^たく^くさ^さん^んのこ^こと^とを^を学^{まな}ば^ばせ^せて^てい^いた^ただ^だき^ました。あ^あり^りが^がと^とう^うご^ござ^ざい^いま^ました。ま^また、ク^かラ^らス^すメ^めイト^{いと}に^に感^{かん}謝^{しゃ}し^しま^ます。皆^あさ^さん^んに^に会^あえ^えて^て良^よか^かった^たです。私^{わたし}た^たち^ちは^はと^とて^とも^も楽^{らく}しい^い時^じ間^{かん}を^を過^すご^ごし^しま^ました。

こ^これ^れで、わ^わた^たし^しの^の発^はっ^つび^びょう^{ょう}を^を終^おわ^わり^りま^ます。あ^あり^りが^がと^とう^うご^ござ^ざい^いま^ました。



1



2



3



4



5



6

さらに、HESPAL奨学金をもらってイギリスに行って、ウィンチェスター大学の大学院のマスターコースに入りました。そこで、「応用グローバルプラクティス」を勉強しました。



7



さまざまな地球規模の問題に取り組むための実際的な管理の方法です。私の研究の焦点は、世界の食糧安全保障と世界の飢餓でした。

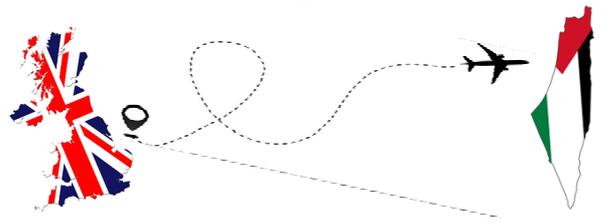
8



マスターは優等で卒業しました。

9

それから私はパレスチナに帰りました。



10



パレスチナに帰って、仕事を始めました。ITの会社です。私は今もその会社で、メディカルロボットの開発をしています。

11



それから、MEXTの奨学金をもらいました。今私は日本で博士課程の勉強をしようとしています。私は、これまでの私の研究を広島大学で1つにまとめようと思っています。

12



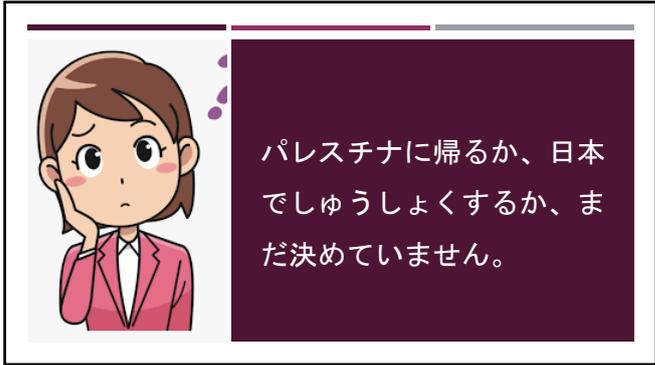
13



14



15



16



17



18

これで、わたしの発表を終わります。

ありがとうございました。



私の研究 母体と胎児のモニタリング

MWAKAWANGA DORKASI LUSHINDIHO (ドルカシ)

みなさん、こんにちは。わたしは、日本語研修コースのドルカシです。タンザニアから来ました。わたしは、医療関係者の仕事をしてきましたが、今は、広島大学の国際保健看護学の研究生です。

これから、わたしの研究 — 胎児の状態のスクリーニングとモニタリングにおける革新的な技術 (innovative technology in screening and monitoring fetus condition) について、発表したいと思います。

はじめに、わたしの研究の背景について話します。次に、これからわたしが研究したいことについて、説明します。そして、わたしが研究を通して、社会に貢献したいことについて、話します。最後に、将来、わたしがしたいことについて、話します。

わたしは3人きょうだいの3番目です。わたしは、医学部に5年間通い、助産師として卒業しました。そして、修士課程に2年間通いました。それから、タンザニアのムヒンビリ大学で母子保健の講師として働き始めました。日本に来るまで、その仕事を3年間していました。

わたしが研究を始めた理由を話します。タンザニアは、妊産婦死亡率が高い国の1つです。そして、これらの死亡のほとんどは予防可能です。そのため、わたしは国で女性と子どもの健康を改善する研究をすることにしました。わたしは、タンザニアの助産師のスキルを強化することを目的としたさまざまな研究プロジェクトに携わってきました。特に、妊婦に健康教育を提供するためのモバイルアプリの普及に力を尽くしてきました。その後、日本で博士号をとることにしました。日本は、医療先進国であり、母子保健の質も世界トップクラスです。ですから、母国で役立つ知識と技術を身につけて卒業したいと思っています。

では、わたしの研究について話します。わたしの研究は、「胎児の状態のスクリーニングとモニタリングにおける革新的な技術（innovative technology in screening and monitoring fetus condition）」です。特に、わたしは、新生児死亡率の問題に対処するためのモバイル胎児モニター、i心電図(iCTG)の使用についての研究をします。モバイル胎児モニターは、胎児心臓モニターと子宮収縮モニターとタブレットで構成された小型でスマートなデバイスです。これは、胎児の正常な状態を示し、問題を特定するためのかなり信頼できるスクリーニング検査です。

こんにち、胎児の周産期死亡、つまり出産の直前や直後の死亡の主な原因は、出生時仮死です。出生時仮死とは、胎児が仮死状態で生まれることです。出生時仮死は、治療するより予防するのが最善の方法です。このため、医療先進国からこの革新的な技術の使用方法を学び、その知識をタンザニアの状況に適用したいと考えています。医療後進国では、妊娠中の安全を監視することが、いくつかの理由から複雑な問題になっています。たとえば、予防可能な状態を検出するための高度なテクノロジーの欠如です。もう一つは、専門の産科医療者の不足です。わたしのこの研究では、助産師と医師にデバイスの使用方法をトレーニングさせます。次に、妊婦にそのモニターを実装します。したがって、私の研究には、助産師と医師だけでなく、妊娠中の母親も参加します。

私の研究は、リスクの高い妊娠における母体と胎児の状態を改善するためのモバイル胎児モニターの実装の可能性に焦点を当てています。標準の開発目標(SDG3)の標準としては、妊産婦死亡率を出生10万人あたり70人未満、新生児死亡率を出生1000人あたり12人未満に減らすことを目指しています。これらのリスクを減らすためには、ハイリスクの妊婦を早期に特定し、より高度な医療施設に移送することが必要です。これは、母体の安全を守ることと、新生児の生存の可能性を高めることにつながります。

医療における ICT の使用は、周産期ケアの質の向上に貢献します。モバイル胎児モニターはポータブルで、どこでも使用できます。モバイル胎児モニターを使用すると、産科医のいないクリニックで出生前検査を増やすことができ、多くの赤ちゃんの命が救われます。この研究は、予期しない緊急出産のリスクを減らすのにも役立ちます。私は、この研究から得られた知見をもとに、この技術を使用すれば周産期の状況を改善できることについて、政策立案者や医療システム当局者に伝えます。

最後に、わたしが将来したいことについて話します。わたしの夢は、出産に関連する合併症で母親と新生児が死亡しないようにすることです。私は、これらの死のほとんどは予防可能だと信じています。母国の状況を変えることに貢献したいと思います。そのために、博士修了後は母国に戻り、大学で研究続けて、教授になります。そして、私は次世代の医療従事者を教え、社会状況を改善することを目的とした研究を行います。また、日本との研究協力を続けます。これが、私の将来の目標です。

これで、わたしの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

私の研究：
母体と胎児のモニタリング

名前：
ムアカワンガ ドルカシ

2022年9月16日



1

発表内容 (はっぴょうないよう)

私の研究の背景について

私が研究したいこと

- 私の研究
- 研究をする理由
- 私の研究を通して、社会への貢献

将来、私がしたいこと

2

私の家族

わたしは3人きょうだいの3番目です。



3

私の背景について

私は、医学部に5年間通い、助産師として卒業しました。そして、修士課程に2年間通いました。



4

日本に来る前



それから、タンザニアのムヒンビリ大学で母子保健の講師として働き始めました。日本にくるまで、その仕事を3年間していました。

5

私が研究を始めた理由 (1)



タンザニアは、妊産婦死亡率が高い国の1つです。そして、これらの死亡のほとんどは予防可能です。

6

私が研究を始めた理由 (2)



そのため、私は国で女性と子どもの健康を改善する研究をすることにしました。

7

私が参加したプロジェクト (3)



私は妊婦に健康教育を提供するためのモバイルアプリの普及に力を尽くしてきました。



8

日本への留学を決意

- ・ 日本で博士号をとることにしました。
- ・ 日本は、医療先進国であり、母子保健の質も世界トップクラスです。

9

私の研究 (1)

胎児の状態のスクリーニングとモニタリングにおける革新的な技術です。



10

私の研究 (2)



特に、私は、新生児死亡率の問題に対処するためのモバイル胎児モニターの使用についての研究をします。

11

私の研究 (3)

- モバイル胎児モニターは、
- ・ 胎児心臓モニター
 - ・ 子宮収縮モニター
 - ・ タブレット



12

研究をする理由

胎児の周産期死亡

- 主な原因は、出生時仮死です。



13



- 妊産婦死亡率 出生10万人あたり70人未満、
- 新生児死亡率 出生1000人あたり12人未満に減

14

私の研究を通して、社会への貢献

これらのリスクを減らすためには、

- 早期に特定し
- より高度な医療施設に移送すること



15

私の研究を通して、社会への貢献

モバイル胎児モニター

- 産科医のいないクリニックで出生前検査を増やすことができ、
- 多くの赤ちゃんの命が救われます。

16

NO WOMAN SHOULD DIE WHILE GIVING LIFE

私の将来 (1)

私の夢は、出産に関連する合併症で母親と新生児が死亡しないようにすることです。

17

私の将来 (2)

私は、これらの死のほとんどは予防可能だと信じています。



18

私の将来 (3)

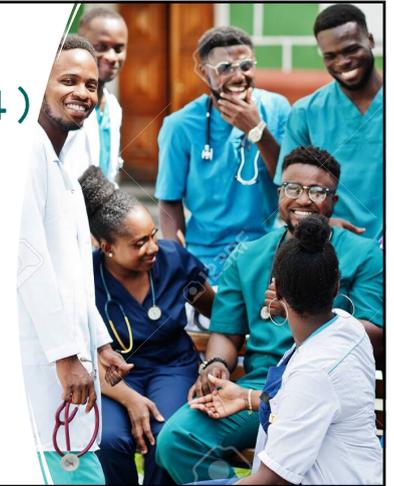


そのために、博士修了後は母国に戻り、大学で研究を続けて、教授になります。

19

私の将来 (4)

- このようにして、
- 次世代の医療従事者を教え、
 - 研究を実施



20

私の将来 (5)

また、日本との研究協力を続けます。



21



ご清聴ありがとうございました

Asante Sana

22

わたしの研究

FONSECA DARA LOPES DIAS (ダラ)

皆さん、こんにちは。私は、日本語研修コースのダラです。カーボベルデからきました。私は、今広島大学の大学院医学プログラムの研究生です。

今日はまず、はじめに、私が日本に来る前のことについてお話します。次に、今の研究について、説明します。最後に、私が将来したいことについて、お話します。それでは、どうぞよろしくお願ひします。

去年、私は中国の首都医科大学で臨床医学を専攻し、卒業しました。私の専攻と研究を始めた理由をお話します。私はいつも医学に対する情熱を持っていました。

さまざまな臨床の経験を経て、私は自分の夢を叶えてくれる医学の勉強に興味を持ちました。そして、私は放射線学を見つけることができました。

医学部3年生の時、私は病院の患者が置かれた状況や病院の内部の仕組みをより理解することができるようになりました。そして最終的に、私は患者が正しい放射線診断を受けること、その分野の重要性がわかりました。

私は、医療の未来は画像による診断をすることにかかっていると考えています。画像によるよい診断をすることは、最高の医療管理の可能性を高め、達成するために非常に重要です。私は特に、手術をしないで、画像による体の診断を可能にする「低侵襲技術」に魅力を感じています。

日本への奨学金の申請のとき、私は指導教員と連絡を取りました。そして先生の研究と腹部CTに関する魅力的な研究に私は興味を持ちました。最後にわたしは介入放射線学のトレーニングと研究とを結合させるというテーマに参加することに決めました。

放射線学の研究は他の国より日本が進んでいます。また日本は医学研究のための高等教育もあります。それに日本は世界有数の経済大国であり、放射線機器のパイオニアで、新しい医療機器を持っています。

それで、私は日本の大学で研究することを決めました。

私の研究成果により母国と日本の強い関係を作ることができればいいと思います。それは日本にとっても母国にとっても、大きな財産になると思います。一方で、私の研究分野により多くの知識をカーボベルデにもたすことができればと思っています。

いま、私の国では放射線学の研究が行われていません。私が行っている新しい研究をカーボベルデに導入することは重要だと思います。

私の国、カーボベルデはアフリカの西海岸の群島です。カーボベルデでは、数多くの社会的、経済的な困難があります。医療保健部門でも同じような困難があります。

カーボベルデは、独立国になってから45年以上経ちました。しかし医療において、診断手段は少なく、大きな問題が残っており、患者はヨーロッパ、主にポルトガルに行って治療を受けるしかありません。

私は、早く放射線医療の専門家になりたいです。そして保健に関する政策を支援し、診断の質を上げたいです。私の夢はカーボベルデのさまざまな病気の治療を行い社会医療保障を向上させることです。

最後に将来したいことについてお話します。

博士課程を修了してから、私は健康行政の勉強を続けるつもりです。

私の夢は、カーボベルデに休暇のために来る人々や海外からの旅行者の世話をするために、提携したホテルに私自身の診療所を持つことです。さまざまな病気の診断と治療について、より高い医療を提供したいです。そのために、将来、日本や

カーボベルデの医師との交流プログラムを企画し、カーボベルデと日本との友好関係を築いていきたいと考えています。

これでは、私の発表を終わります。ご清聴、どうもありがとうございました。

FONSECA DARA LOPES DIAS (ダラ)



1



2



3



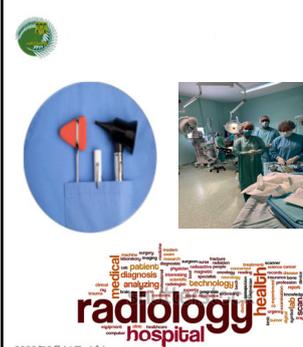
4



5



6



背景 2

- 臨床の経験
 - 医学の勉強に興味
 - 放射線学を見つけること

2022年9月16日 (金)

7



背景 3

- 医学部 3年生からの考え
 - 患者の状況、病院の仕組み
- 放射線診断の重要性

2022年9月16日 (金)

8



背景 4

- 医療の未来
 - 画像による診断→最高の医療管理
- 低侵襲技術
 - できるだけ手術をしない

2022年9月16日 (金)

9



背景 5

- 奨学金の申請
 - 指導教官との連絡
- 腹部CTの研究が魅力的
 - 興味を持ちました
- 介入放射線学

2022年9月16日 (金)

10



背景 6

- 日本の大学へ
 - 医学研究が進んでいます
 - 世界有数の経済大国
 - 最新の医療機械

2022年9月16日 (金)

11



私の研究 1

- 母国と日本
 - より強い関係を持つ
 - 知識を母国

2022年9月16日 (金)

12

私の研究 2

- 母国と日本
- 新しい研究を母国に導入

2022年9月16日 (金)

13

HIROSHIMA UNIVERSITY

私の研究 3

- 私の国カーボベルデ (1)
- アフリカ西海岸の群島

2022年9月16日 (金)

14

私の研究 3

- 私の国カーボベルデ (1)
- 社会的、経済的に困難
- 医療保険部門の欠如

2022年9月16日 (金)

15

私の研究 4

- 私の国カーボベルデ (2)
- 独立して46年

2022年9月16日 (金)

16

私の研究 4

- 私の国カーボベルデ (2)
- 医療の問題
- 患者がポルトガルへ

2022年9月16日 (金)

17

私の研究 5

- 放射線医療の専門家に
- 保険政策の支援
- 診断の質の向上
- 社会保障

2022年9月16日 (金)

18

将来したいこと

- 修了後
 - 健康行政の勉強



2022年9月16日 (金)

19

私の夢 1

- カーボベルデに来る人々を助ける
 - 国民
 - 海外旅行者
 - 私自身の診療所



2022年9月16日 (金)

20

私の夢 2

- さまざまな病気の治療と診断
 - 高品質
 - 信頼性



2022年9月16日 (金)

21

私の夢 3

- 日本とカーボベルデとの交流
 - 交流プログラムを企画
 - 友好関係を築く



2022年9月16日 (金)

22

以上です



どうも ありがとう ございました

あーみー
あーみー

23

私の研究 しんぞうけっかん げ か 心臓血管外科

ASHSHOLIH KHOIRUR RIJAL (リジャル)

みなさん、こんにちは。私はコイルール・リジャル・アッシュォリーです。インドネシアから来ました。広島大学のもりとこくさいこうとうきょうういくがくいん森戸国際高等教育学院で日本語を勉強しています。私は、広島大学の研究生です。日本語けんしゅう研修コースの後、来年4月に、大学院に入ります。

これから、私の研究けんきゅう—心臓血管外科しんぞうけっかん げ かについて発表はつひょうしたいと思います。はじめに、日本に来る前のことについて、話します。次に、これから研究したいことについて、説明せつめいします。さいごに、将来したいことについて、話します。

私は4人家族です。妻と息子二人と私です。今は、私だけ広島にすんでいます。家族はまだ、インドネシアにすんでいます。10月に日本に来ます。上の子は5さいで、下の子は2さいです。どちらもとてもかわいいです。

私は、そうごうしんりょうい総合診療医で、インドネシアでは、病院ではたらいっていました。大学生の時から、心臓かんに関するきょうみことに興味があり、心臓血管外科医げ か いになりたいと思うようになりました。また、私は大学の先生にもなりたいたいと思っていたので、大学院だいがくいんに進学しんがくすることにしました。

インドネシアでは、びょうき病気や死亡しぼうのもっとも大きな原因げんいんが心血管しんけっかんに関連する疾患かんれんです。しかし、心臓血管外科医は100人ぐらいいしかいません。大学の先生せんせいに相談そうだんすると、留学するのが一番いいと言われました。

だいたいみやく大動脈の手術しゅじゆつでは、せきずい脊髄の合併症がっぺいしやうが起きる可能性かのうせいがあります。その合併症をふせ防ぐため、医師いしは何らかの対策なん たいさくを講じる必要こう ひつようがあります。私は、その方法をまなび学びたいと思っています。インドネシアより、日本の方が医療いりようシステムが進んでいると思います。また、

日本はアジアにあるので、インドネシアから近く、生活習慣も似ているところがあると考えました。それで、日本の大学院で研究することにしました。

次に、私の研究について話したいと思います。私の研究テーマは、大動脈手術による合併症を防ぐ方法です。

大動脈は脊髄に血液を供給しています。大動脈手術中に、大動脈をクランプしなければならぬので、脊髄への血液供給が止まります。それが長い時間続けば、下半身に血液が行かないので、下半身の麻痺を引き起こす可能性があります。

これを防ぐ方法がいくつかあります。たとえば、手術の時に、患者の体温を下げたり、幹細胞を入れたりします。私は、合併症を防ぐための新しい方法を見つけてみたいと思っています。実験には、たいてい、ラットを使います。

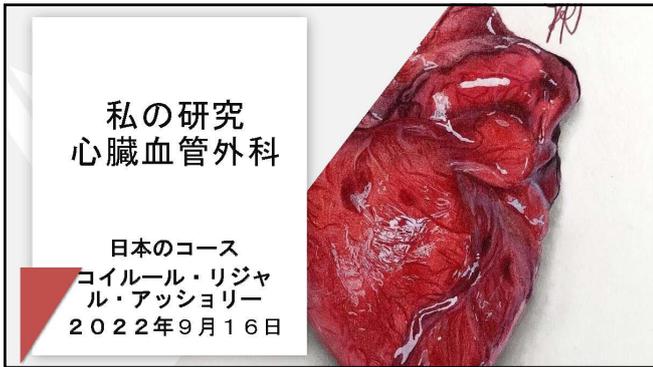
私の大学院での専門は心臓血管外科です。私が合併症を防ぐ新しい方法を研究するのは、大動脈手術をより安全なものにするためです。大動脈手術の準備として何が必要かを知ることもできます。

医学は急速に発展しています。私の研究が多くの命を救うのに役立つことを願っています。日本だけではなく、世界、特にインドネシアで役立つようにしたいと思っています。

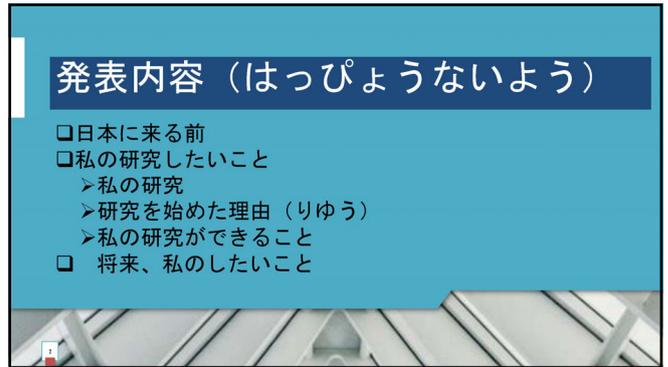
最後に、将来したいことについて話します。

私は、将来、心臓血管外科医になりたいと思っています。大学の先生になるのもいいと思います。博士号をとって、インドネシアに帰ります。日本の大学と一しょに共同研究をしたいと思っています。そして、博士課程を修了してからも、心臓関係の研究を続けたいと思っています。それに、学会で私の研究を発表しようと思っています。

日本とくらべると、インドネシアでは、研究がまだ少ないと思います。医学の進歩^{しんぽ}のために、将来の私の学生には、自分の好きな研究をしてほしいと私は思っています。私と同じように、日本に留学^{りゅうがく}もしてほしいと思っています。
以上^{いじょう}です。



1



2



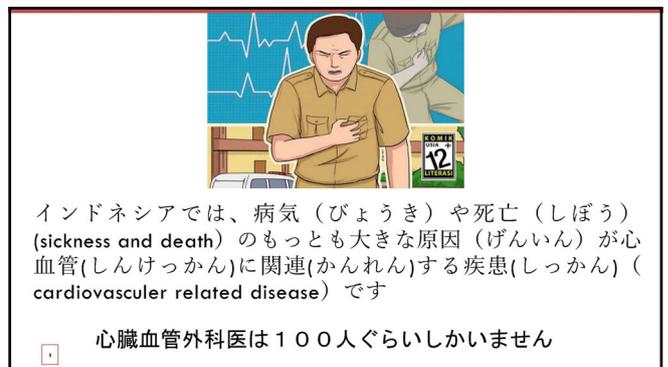
3



4



5



6

大学の先生に相談(そうだん)→留学するのがいいと言われました



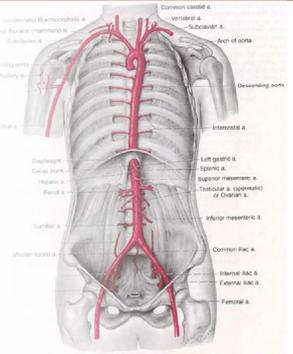
なぜ日本に留学に来たか？

- 生活
- 医療(いりょう)システム
- 日本が大好き

7

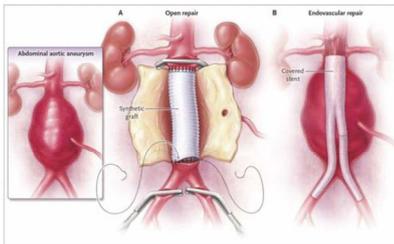
7

大動脈(だいどうみやく)は脊髄(せきずい) (spinal cord) に血液(けつえき)を供給(きょうきゅう) (supply blood) しています



8

8

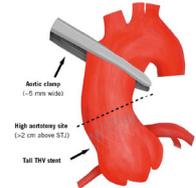


大動脈(だいどうみやく) (great aorta) の手術(しゅじゅつ)では、脊髄(せきずい) (spinal cord) の合併症(がっぺいしょう) (complication) が起(お)きる可能性(かのうせい) (possibility) があります

9

9

大動脈手術中に、大動脈をクランプ (to clamp) しなければならないので、脊髄 (せきずい) への血液供給(けつえききょうきゅう) (blood supply) が止まります



10

10

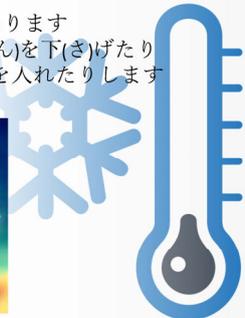
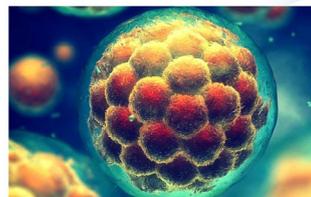
それが長い時間続(つづ)けば、下半身(かはんしん)に血液(けつえき)が行かないので、下半身の麻痺(まひ) (paralyzed)を引(ひ)き起(お)こす可能性(かのうせい) (potentially) があります



11

11

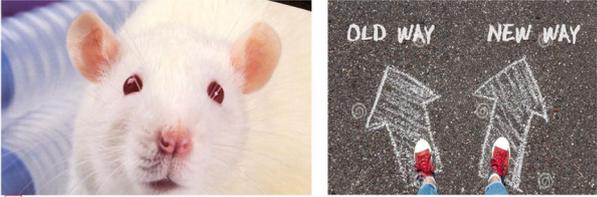
- これを防ぐ方法(かた)がいくつかあります
- 患者(かんじゃ)の体温(たいおん)を下(さ)げたり
- 幹細胞(かんさいぼう) (stem cell)を入れたりします



12

12

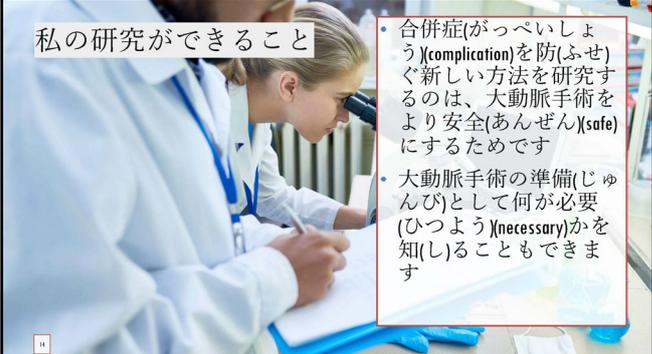
- 合併症を防ぐための新しい方法を見つけてみたいと思っています
- 実験(じっけん)には、たいてい、ラットを使います



13

私の研究ができること

- 合併症(がっぺいしょう)(complication)を防(ふせ)ぐ新しい方法を研究するのは、大動脈手術をより安全(あんぜん)(safe)にするためです
- 大動脈手術の準備(じゅんび)として何が必要(ひつよう)(necessary)かを知(し)ることもできます



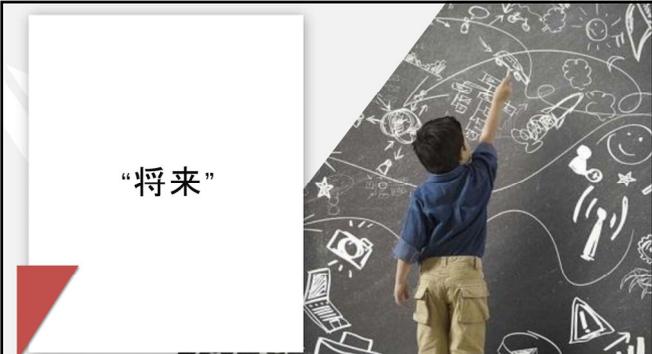
14

- 多くの命(いのち) (save many lives) を救(すく)うのに役立(やくだ)つことを願(ねが)っています
- 日本(にっぽん)だけではなく(not only Japan)世界(せかい) (also to the world)、特(とく)くにインドネシアで役立(やくだ)つようにしたいと思っています



15

“将来”



16

心臓血管外科医になりたいと思っています

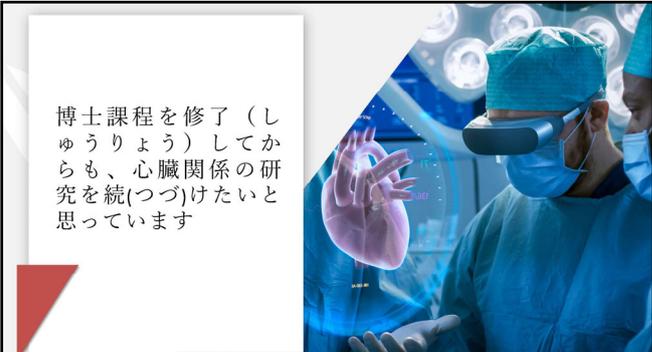


大学の先生になるのもいいと思います



17

博士課程を修了(しゅうりょう)してからも、心臓関係の研究を続(つづ)けたいと思っています



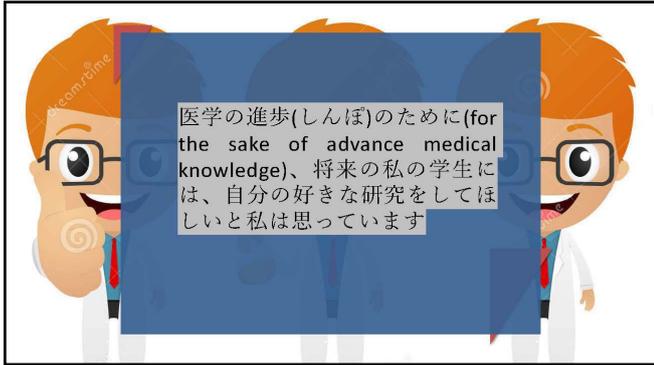
18



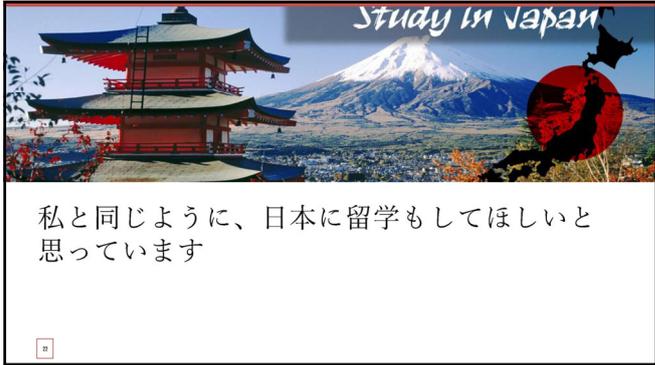
19



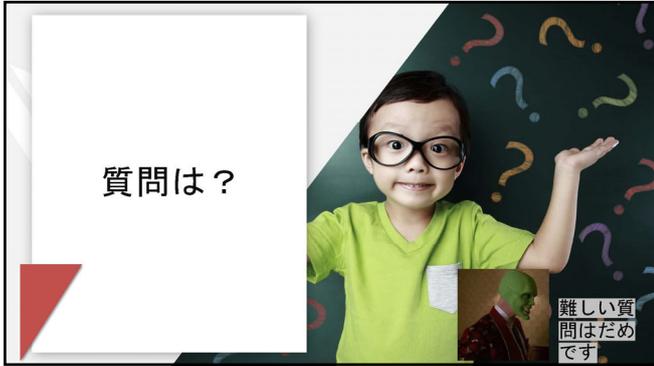
20



21



22



23